

2020年度 第1四半期 業績概要

注意事項

- 当社は2020年5月28日提出の有価証券報告書より、会計基準の統一による経営管理の高度化および資本市場における財務情報の国際的な比較可能性向上を目的として、国際財務報告基準(以下「IFRS」)を任意適用しております。また、2020年度よりセグメント区分の見直しなども行っています。これにより2019年度の数値は、これらの変更影響を加味した上で算出しています。(P17参照)
- 本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。
- 本資料に記載の数値は四捨五入にて表示しており、決算短信など他資料と異なる場合がありますので、ご了承ください。
- 本資料の著作権は当社に帰属し、当社の事前の承諾なく複製または転用することを禁じます。

株式会社 安川電機 (TSE6506)

(対象期間：2020年3月1日～2020年5月31日)

1. 2020年度 第1四半期 連結業績

- 2020年度 第1四半期 実績
- 主要事業の概要
- 事業セグメント別売上収益構成比
- 仕向先別売上収益，構成比
- 営業利益増減要因分析
- 2020年度 第1四半期の取り組み

2. 2020年度 第2四半期 業績見通し

- 2020年度 第2四半期 見通し

3. 参考資料

- IFRS・セグメント変更による過年度の組替表示
- 設備投資・研究開発費,為替レート,感応度
- B/S 構造の推移
- 連結売上収益・営業利益推移
- 四半期連結売上収益推移
- 四半期連結受注推移
- グローバル生産拠点

セグメント別事業概要

モーションコントロール

【主要製品】

- ・ A Cサーボモータ、コントローラ
 - ・ リニアサーボ
 - ・ インバータ
 - ・ PMモータ
- など



ロボット

【主要製品】

- ・ 産業用ロボット
 - アーク・スポット溶接・塗装用途向け
 - FPD搬送・ハンドリング用途向け
 - ・ 半導体製造装置用ロボット
 - ・ バイオメディカル用途向けロボット
 - ・ 人協働ロボット
- など



システムエンジニアリング

【主要製品】

- ・ 大型風力発電用電機品
 - ・ 太陽光発電用パワーコンディショナ
 - ・ 上下水道用電気計装システム
 - ・ 鉄鋼プラント用電機システム
- など



その他

- ・ 物流サービス
- など

1. 2020年度 第1四半期 連結業績

2020年度 第1四半期 実績（連結）

- 世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、グローバルで設備投資需要が低迷し減収減益

	2020年度	2019年度	前年同期比	
	1Q 実績	1Q 実績	増減額	増減率
売上収益	908億円	1,074億円	▲166億円	▲15.5%
営業利益	62億円	79億円	▲17億円	▲21.6%
税引前利益	59億円	75億円	▲16億円	▲21.4%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	45億円	54億円	▲9億円	▲16.7%

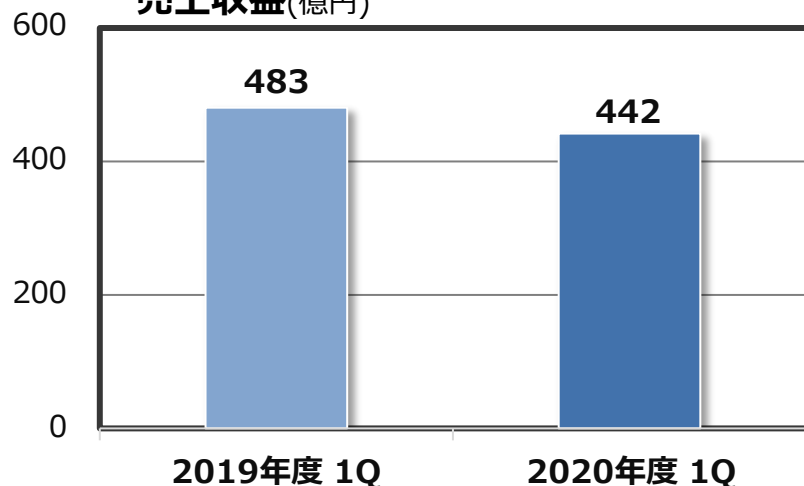
2020年度 第1四半期 実績（セグメント別）

- ・ モーションコントロール、システムエンジニアリングは減収ながら増益
- ・ ロボットは新型コロナウイルスの影響を大きく受け減収減益

	2020年度 1Q		2019年度 1Q		前年 同 期 比	
	実績	利益率	実績	利益率	増減額	増減率
(単位：億円)						
売上収益	908		1,074		▲166	▲15.5%
モーションコントロール	442		483		▲40	▲8.4%
ロボット	293		391		▲99	▲25.2%
システムエンジニアリング	120		143		▲23	▲16.1%
その他	53		57		▲4	▲7.2%
営業利益	62	6.9%	79	7.4%	▲17	▲21.6%
モーションコントロール	66	14.9%	62	12.9%	+3	+5.4%
ロボット	3	0.9%	20	5.1%	▲17	▲87.0%
システムエンジニアリング	1	0.7%	+1	0.5%	+0	+37.0%
その他	▲1	▲1.3%	0	0.8%	▲1	-
消去または全社	▲6	-	▲4	-	▲2	-

主要事業の概要_モーションコントロール

売上収益(億円)



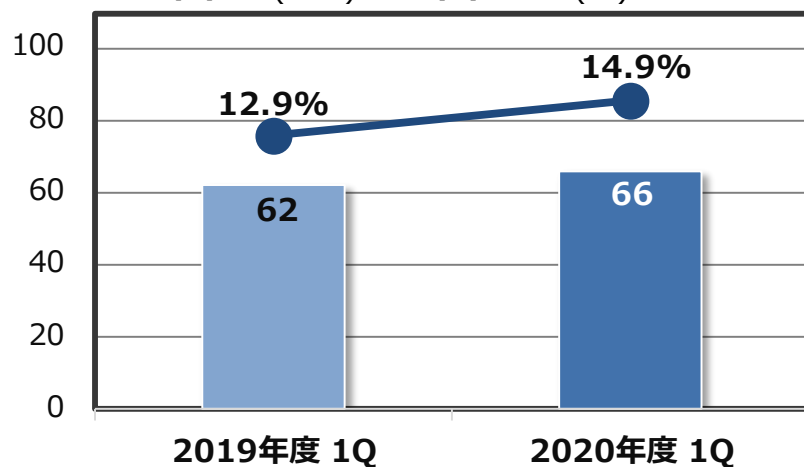
【売上収益】

- ACサーボは中国で5G関連需要が増加したことに加え、日米韓で半導体関連が堅調
- インバータは国内での販売が底堅く推移したものの、米国のオイル・ガス関連需要が大きく落ち込む

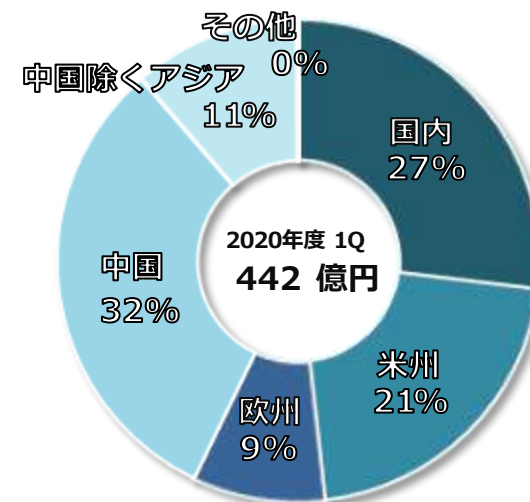
【営業利益】

- ACサーボの中国での売上が回復したことに加え、経費の抑制などにより営業利益は増加

営業利益(億円)・営業利益率(%)

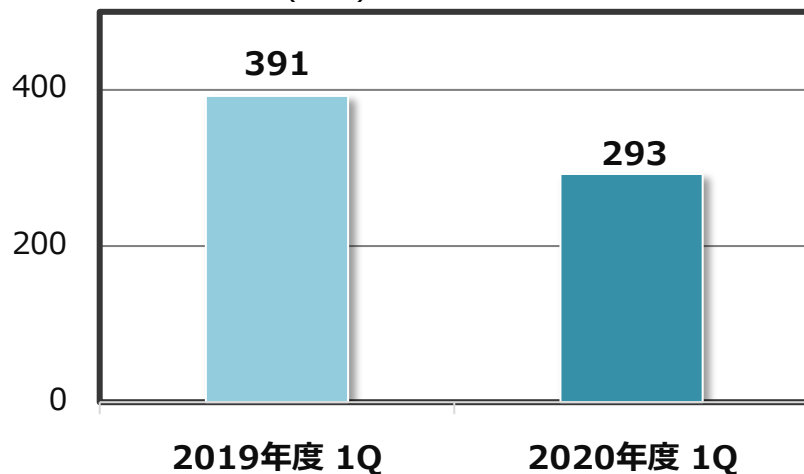


仕向先別売上収益構成比



主要事業の概要_ロボット

売上収益(億円)



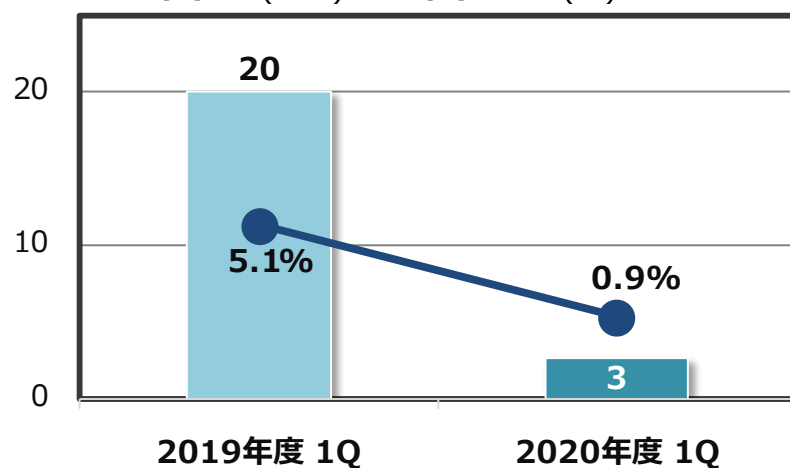
【売上収益】

- ・ 自動車関連はグローバルで設備投資が抑制されたことに加え、お客さまの工場の稼働停止による影響を受け低迷
- ・ 一般産業分野は中国 3 C 市場で自動化投資に回復の兆しがみられたが、新型コロナウイルスの影響を受け伸び悩む
- ・ 半導体ロボットは国内を中心に堅調

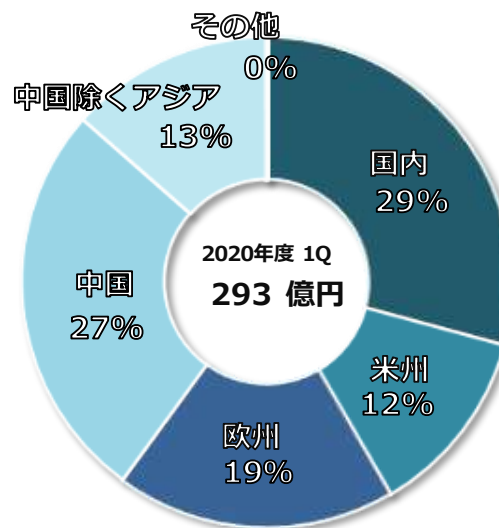
【営業利益】

- ・ 売上が落ち込んだ影響などにより営業利益は減少

営業利益(億円)・営業利益率(%)

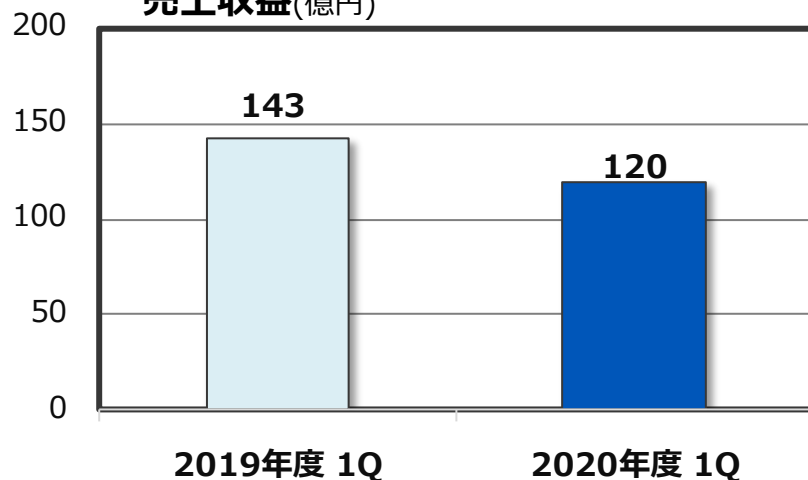


仕向先別売上収益構成比



主要事業の概要_システムエンジニアリング

売上収益(億円)



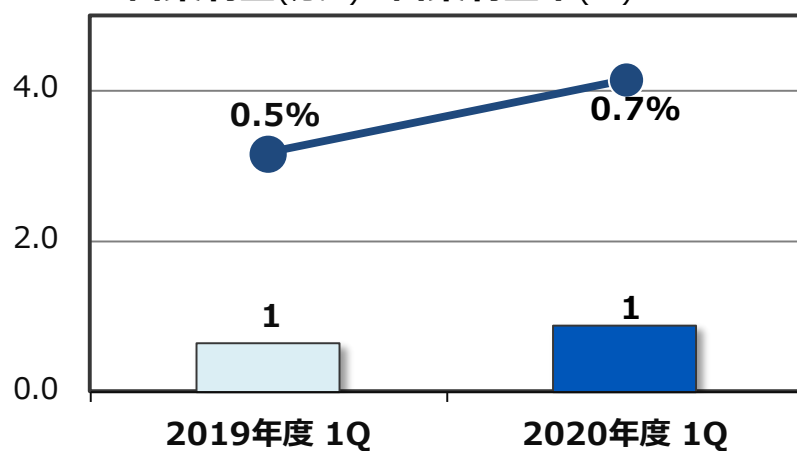
【売上収益】

- 国内における鉄鋼プラント関連や上下水道用電気システム関連の売上が伸び悩む
- 環境エネルギー分野の太陽光発電用パワーコンディショナの販売は新製品の市場投入効果で伸長
- セグメント全体では、新型コロナウイルスの影響により国内を中心に売上が減少

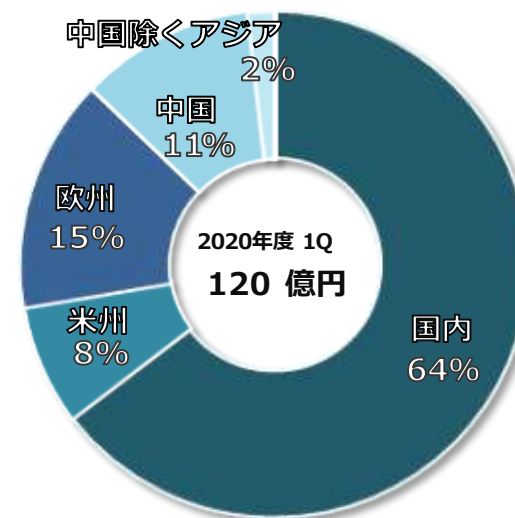
【営業利益】

- 営業利益は構造改革や新製品の市場投入効果などで増加

営業利益(億円)・営業利益率(%)

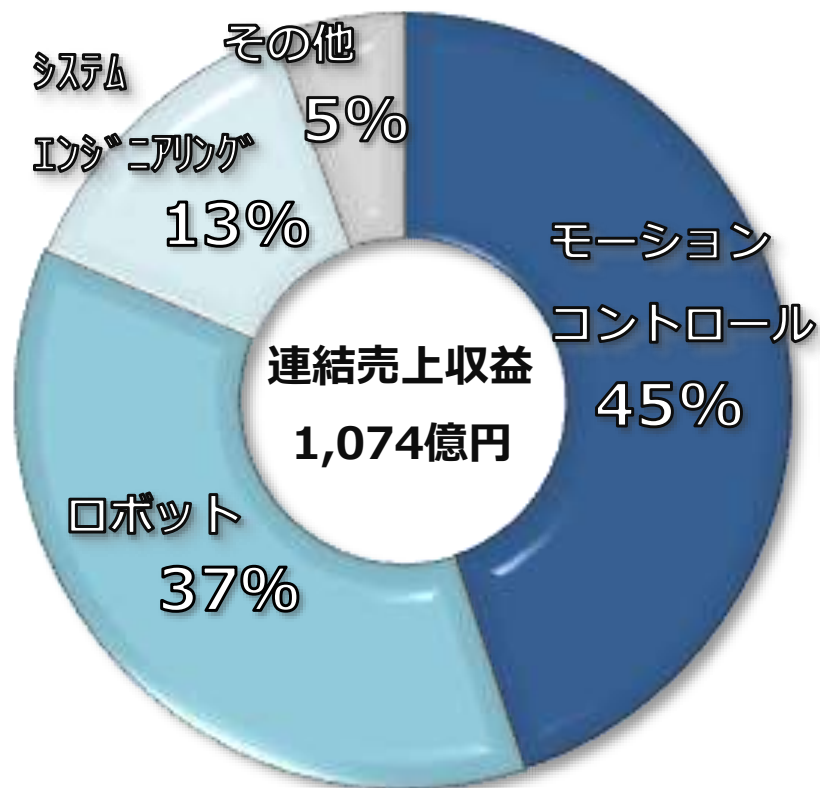


仕向先別売上収益構成比

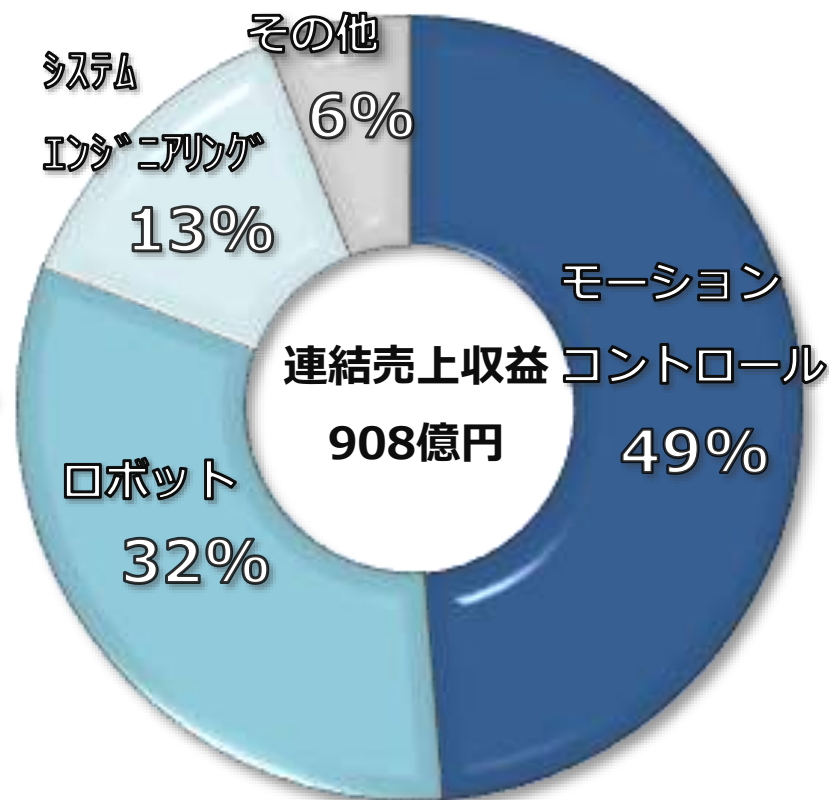


事業セグメント別売上収益構成比

2019年度 1Q



2020年度 1Q



仕向先別売上収益（2019年度 1Q → 2020年度 1Q）

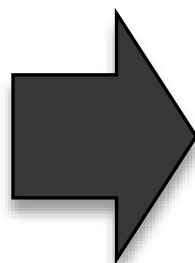
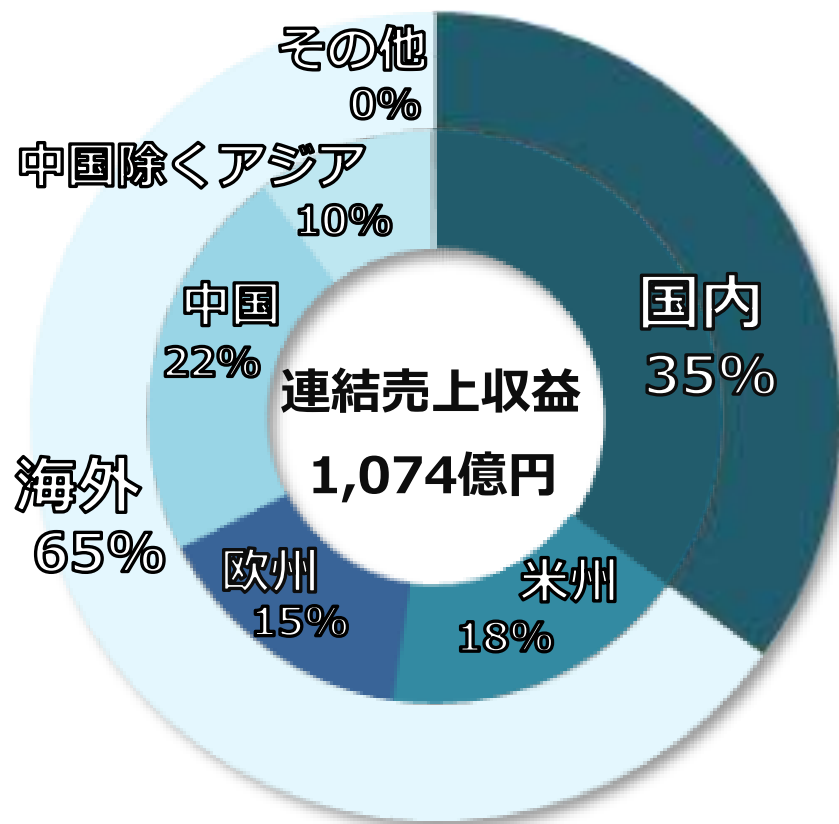
• 中国は底堅く推移も、全体的には減収

(単位：億円)	2020年度	2019年度	前年同 期 比	
	1Q 実績	1Q 実績	増減額	増減率
売上収益	908	1,074	▲166	▲15.5%
国内	326	376	▲50	▲13.4%
海外	582	698	▲116	▲16.6%
米州	140	188	▲48	▲25.4%
欧州	111	161	▲49	▲30.8%
中国	239	240	▲1	▲0.4%
中国除くアジア	91	108	▲17	▲15.7%
その他	0	2	▲1	▲75.6%

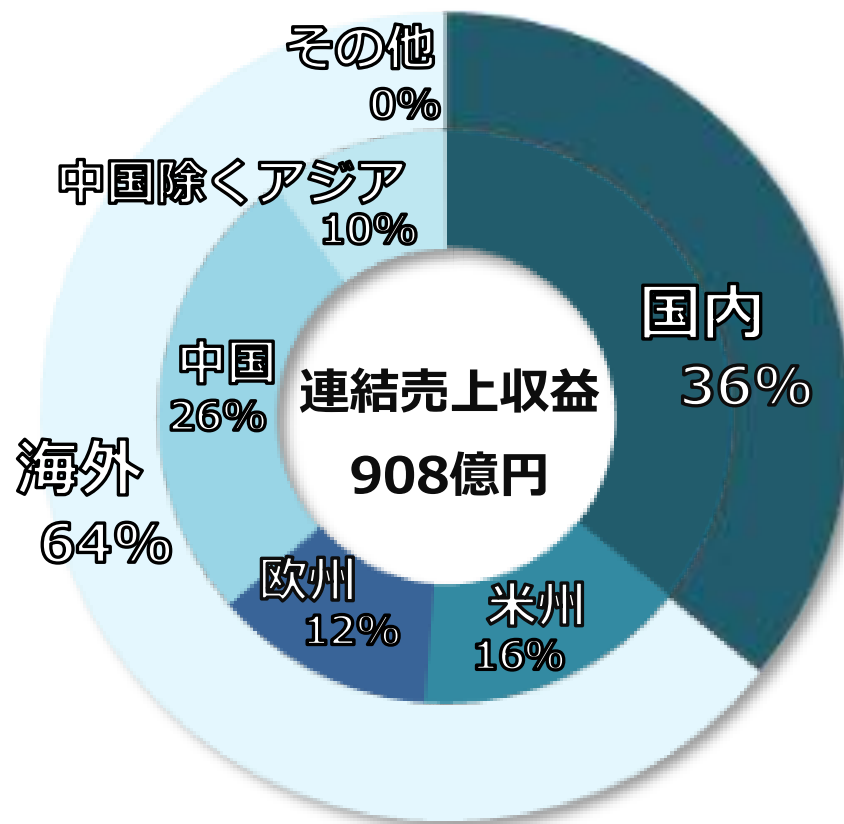
[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

仕向先別売上収益構成比

2019年度 1Q



2020年度 1Q



[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

営業利益増減要因分析（2019年度 1Q → 2020年度 1Q）

（単位：億円）

2019年度
1Q

79

為替影響

▲11

売上減による
利益減

▲37

付加価値減

▲7

経費減
+34

その他
+4

2020年度
1Q
62

▲17

2020年度1Qにおける取り組み

➤ “ロボティクス”ビジネス拡大を加速する 新製品のラインアップ強化

➔ 新型半導体ウエハ搬送用クリーンロボットを販売開始(20年5月)

- 減速機を必要としないダイレクトドライブ駆動方式を採用し、従来機種より高精度・低振動な動きを実現

新型半導体ウエハ搬送用クリーンロボット
「SEMISTAR-GEKKO MD124D」



➤ Clean Power事業の収益力強化

➔ 太陽光発電用パワーコンディショナ XGI1500 150kWを販売開始(20年6月)

- 高電圧化(1500V)によるシステムコストの低減に寄与



太陽光発電用パワーコンディショナ
「XGI1500 150kW」

➤ 産学連携の取り組み強化

➔ 「未来ロボティクスエンジニア育成協議会」に参画

- 産業界と高等専門学校などの教育機関が連携し、将来のロボット関連人材の育成を支援

➔ 東京工業大学とYASKAWA未来技術共同研究講座を開設

- 産学連携により人協働ロボット用の超軽量アクチュエータの研究に取り組む

2. 2020年度 第2四半期 連結業績見通し

2020年度 第2四半期 見通し（連結，セグメント別）

- 新型コロナウイルスの感染拡大ならびに米中貿易摩擦の再燃によりグローバルで設備投資動向が不透明なため、2020年度2Q業績を以下のとおり予想

		2020年度 1Q		2020年度 2Q		2020年度 上期	
		実績	利益率	予想	利益率	予想	利益率
(単位：億円)							
売上収益		908		900		1,808	
	モーションコントロール	442		418		860	
	ロボット	293		307		600	
	システムエンジニアリング	120		120		240	
	その他	53		55		108	
営業利益		62	6.9%	45	5.0%	107	5.9%
	モーションコントロール	66	14.9%	55	13.1%	121	14.0%
	ロボット	3	0.9%	▲3	▲0.8%	0	0.0%
	システムエンジニアリング	1	0.7%	▲1	▲0.7%	▲0	▲0.0%
	その他	▲1	▲1.3%	▲1	▲1.1%	▲1	▲1.2%
	消去または全社	▲6	-	▲6	-	▲12	-
親会社の所有者に帰属する当期利益		45	5.0%	35	3.9%	80	4.4%

3. 参考資料

I F R Sおよびセグメント区分の見直しなどによる過年度の組替表示

		2019年度 1Q			
(単位：億円)		日本基準	IFRS 組替影響	セグメント 組替影響	IFRS (セグメント組替後)
売上高，売上収益		1,074	-	-	1,074
	モーションコントロール	479	-	+4	483
	ロボット	391	-	-	391
	システムエンジニアリング	146	-	▲4	143
	その他	57	-	-	57
営業利益		72	+8	-	79
	モーションコントロール	61	+2	+0	62
	ロボット	18	+1	+1	20
	システムエンジニアリング	▲2	+2	+1	1
	その他	▲1	+1	-	0
	消去または全社	▲4	+2	▲2	▲4
親会社株主に帰属する四半期純利益， 親会社の所有者に帰属する四半期利益		47	+7	-	54

設備投資・研究開発費の状況/為替レート/感応度

- 2020年度 通期業績見通しの公表見送りに伴い、「設備投資」「減価償却費」「研究開発費」の2020年度 計画値の公表も見送る

設備投資・研究開発費の状況

(単位：億円)

	2017年度 (実績)	2018年度 (実績)	2019年度 (実績)
設備投資額	196.9	356.5	254.7
減価償却費	126.9	143.1	167.5
研究開発投資	190.7	207.9	190.0

為替レート

※ 為替レートは、期中平均レートを記載

(単位：円)

	2018年度 (実績)			2019年度 (実績)			2020年度 (想定)	
	1Q	上期	通期	1Q	上期	通期	1Q (実績)	上期
対 米ドル	107.8	109.3	110.5	111.0	109.2	109.0	107.6	107.3
対 ユーロ	130.9	129.9	128.9	124.7	122.6	121.4	117.9	117.9
対 円	17.05	16.81	16.56	16.38	15.91	15.70	15.21	15.21
対 ウォン	0.101	0.100	0.100	0.096	0.093	0.093	0.088	0.088

為替感応度

(単位：億円)

	1%変動による影響額 (2020年度_上期 想定)	
	売上収益	営業利益
米ドル	約 3.2	約 0.6
ユーロ	約 2.4	約 0.4
円	約 4.6	約 1.2
ウォン	約 1.0	約 0.8

B/S 構造の推移

2020年2月29日時点

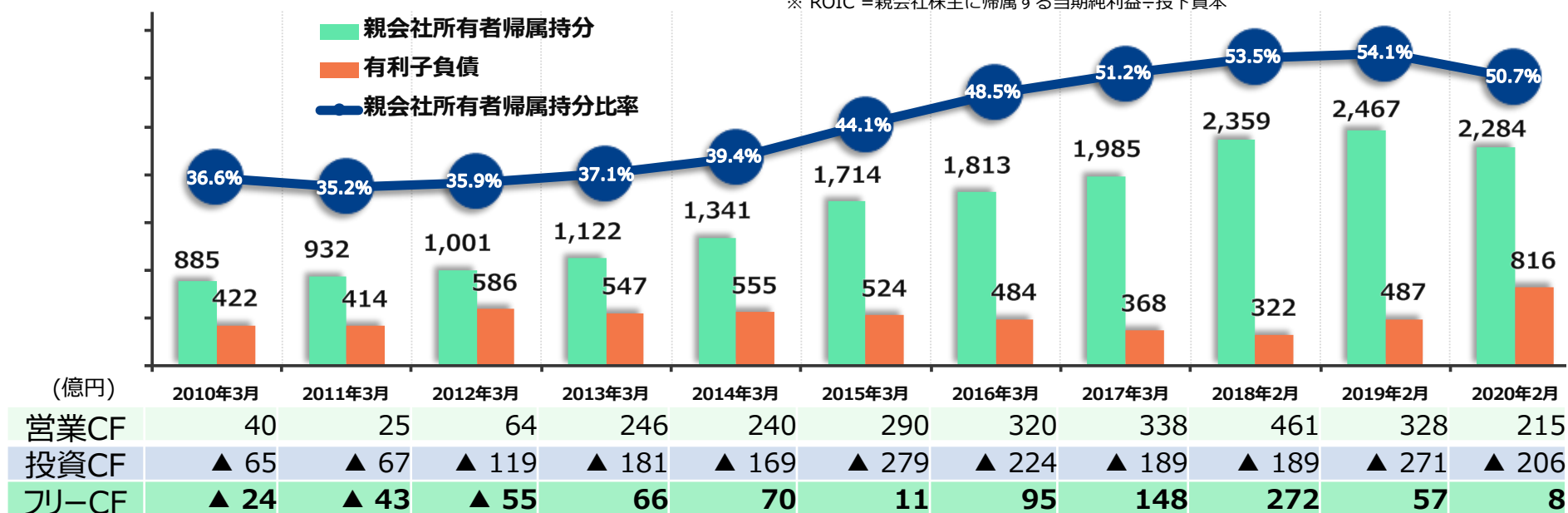
- 親会社所有者帰属持分比率 50.7%
- 親会社所有者帰属持分 2,284億円
- 有利子負債 816億円
- D/Eレシオ 0.36
(ネットD/Eレシオ) 0.18
- 棚卸資産 1,020億円
(回転月数) (3.0ヶ月)
- ROE 6.6%
- ROIC 5.9%

2020年5月31日時点

- 親会社所有者帰属持分比率 49.0%
- 親会社所有者帰属持分 2,212億円
- 有利子負債 845億円
- D/Eレシオ 0.38
(ネットD/Eレシオ) 0.16
- 棚卸資産 1,068億円
(回転月数) (3.5ヶ月)

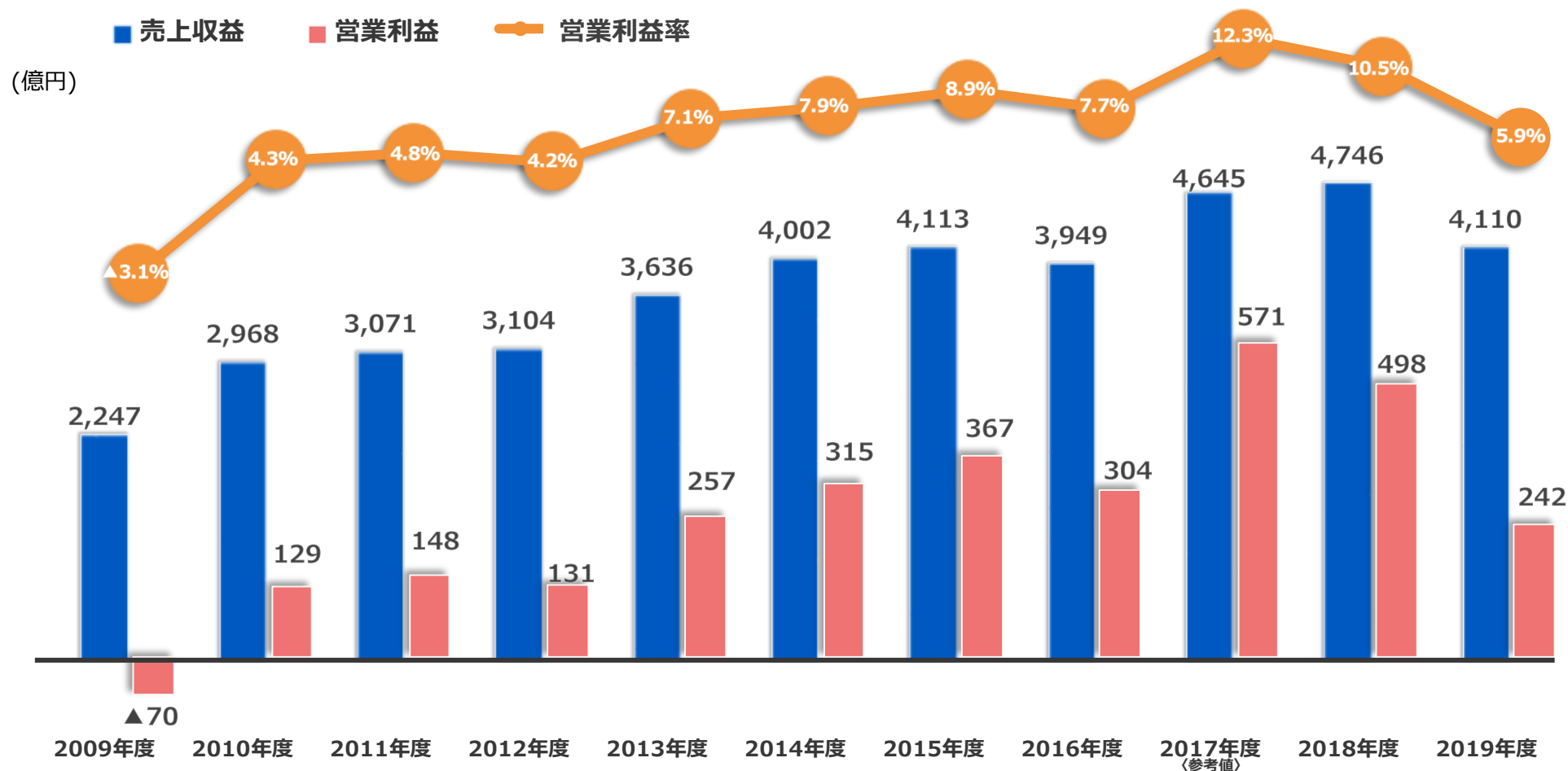
※ 有利子負債はリース債務を含む
 ※ 棚卸資産回転月数の計算には棚卸資産の期末値を使用
 ※ ROE = 親会社株主に帰属する当期純利益 ÷ ((前期末自己資本 + 当期末自己資本) ÷ 2)
 ※ ROIC = 親会社株主に帰属する当期純利益 ÷ 投下資本

(億円)



[注] 2019年2月までのデータは日本基準にて記載しています

連結売上収益・営業利益推移（2009年度～2019年度）



Challenge 100

Realize 100

Dash 25

Challenge 25

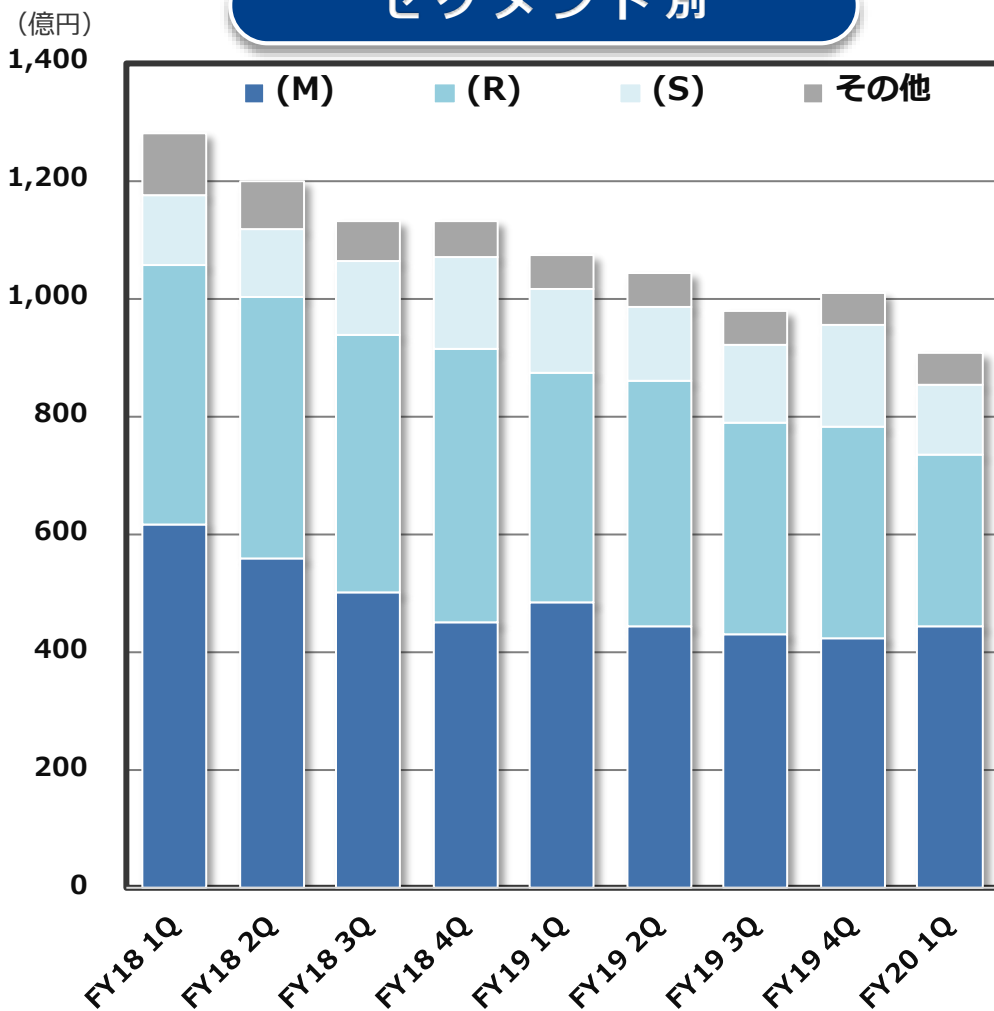
中期経営計画

[注1.] 2018年度までのデータは日本基準にて記載しています

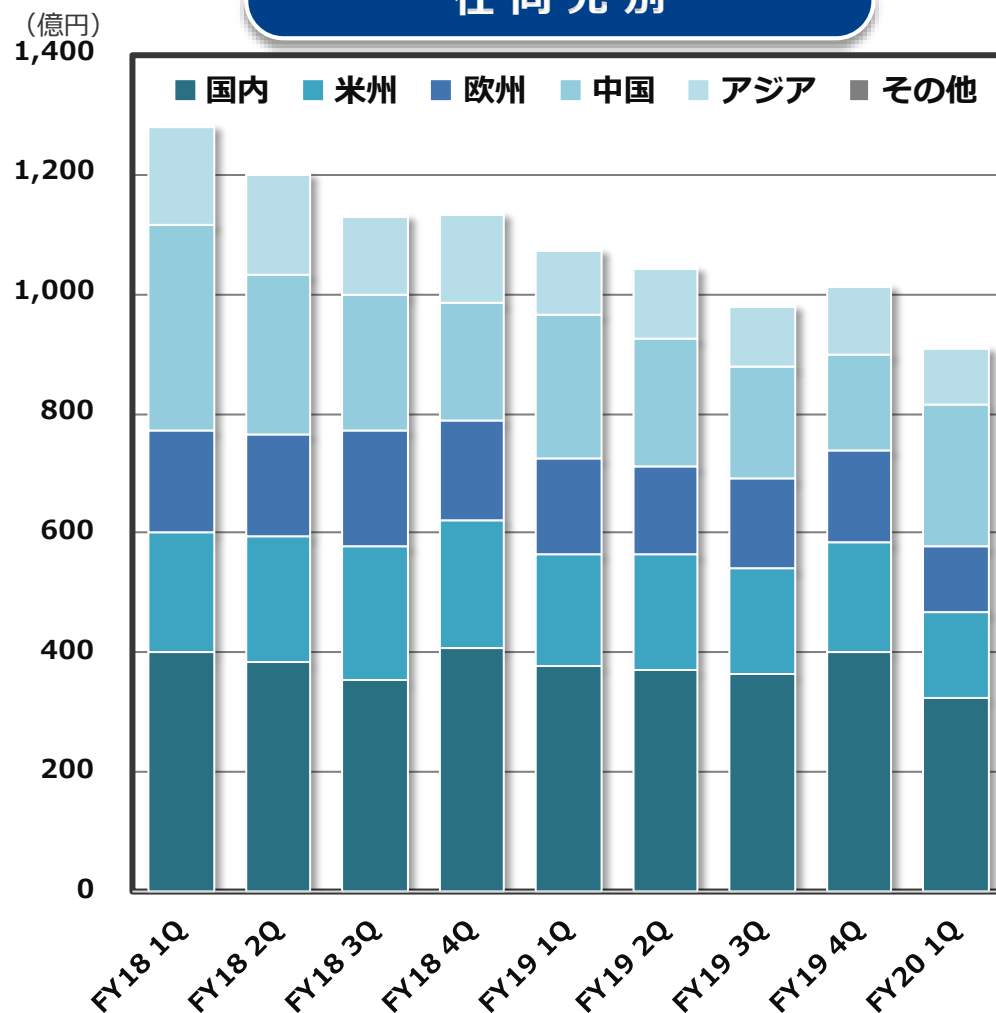
[注2.] 2017年度通期実績は、対象期間を2017年3月21日～2018年3月20日に置き換えた〈参考値〉にて記載

四半期連結売上収益推移

セグメント別



仕向先別



[注.1] FY19およびFY20の1Qデータは、セグメント区分変更後の数値を使用

[注.2] 表記：(M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング

四半期連結売上収益推移

モーションコントロール

(億円)

700

600

500

400

300

200

100

0

■ 国内 ■ 米州 ■ 欧州 ■ 中国 ■ アジア ■ その他

FY18 1Q FY18 2Q FY18 3Q FY18 4Q FY19 1Q FY19 2Q FY19 3Q FY19 4Q FY20 1Q

ロボット

(億円)

500

400

300

200

100

0

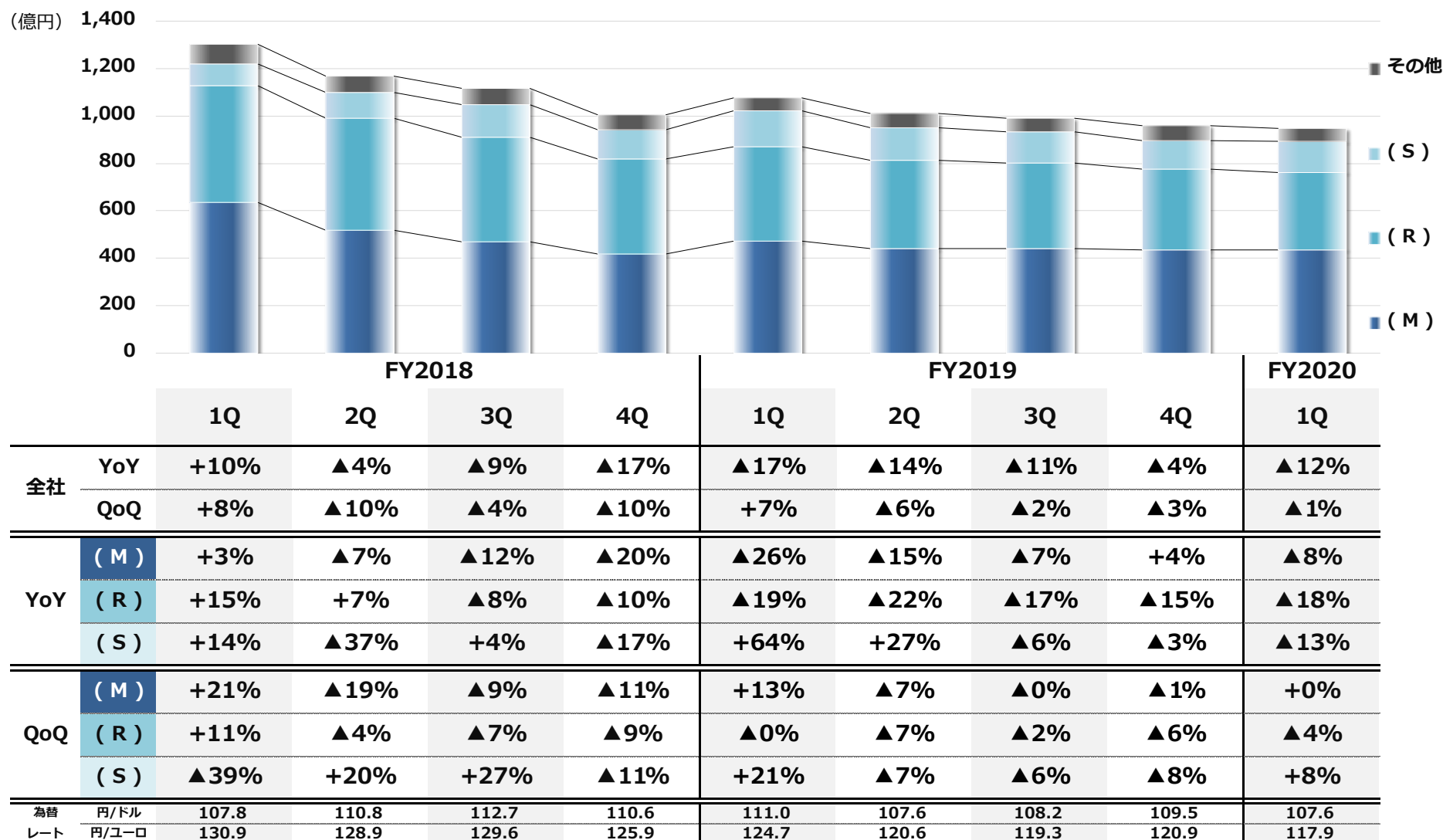
■ 国内 ■ 米州 ■ 欧州 ■ 中国 ■ アジア ■ その他

FY18 1Q FY18 2Q FY18 3Q FY18 4Q FY19 1Q FY19 2Q FY19 3Q FY19 4Q FY20 1Q

[注] FY19およびFY20の1Qデータは、セグメント区分変更後の数値を使用

四半期連結受注推移（セグメント別）

※為替は期中平均レートを使用

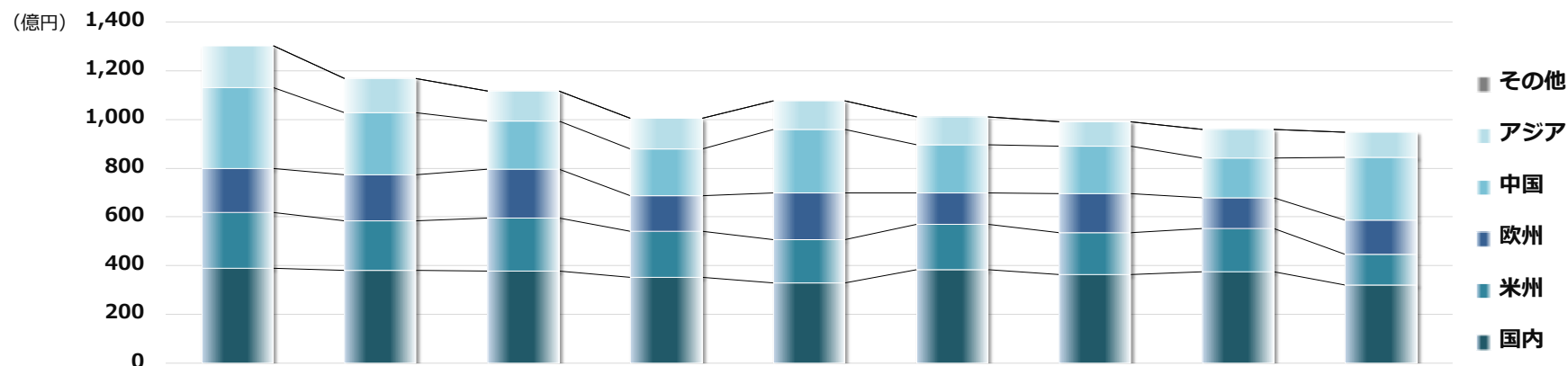


[注.1] 表記：(M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング

[注.2] FY19およびFY20のデータは、セグメント区分変更後の数値を使用

四半期連結受注推移（仕向先別）

※為替は期中平均レートを使用



		FY2018				FY2019				FY2020
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
全社	YoY	+10%	▲4%	▲9%	▲17%	▲17%	▲14%	▲11%	▲4%	▲12%
	QoQ	+8%	▲10%	▲4%	▲10%	+7%	▲6%	▲2%	▲3%	▲1%
YoY	国内	+18%	+4%	▲6%	▲6%	▲15%	+1%	▲4%	+6%	▲3%
	米州	+11%	▲10%	▲5%	▲10%	▲23%	▲8%	▲21%	▲5%	▲28%
	欧州	+16%	▲6%	+11%	▲15%	+7%	▲33%	▲19%	▲13%	▲27%
	中国	+8%	▲8%	▲23%	▲35%	▲22%	▲21%	▲3%	▲15%	▲1%
	アジア	▲6%	▲13%	▲28%	▲21%	▲30%	▲20%	▲18%	▲7%	▲12%
QoQ	国内	+4%	▲2%	▲1%	▲7%	▲7%	+17%	▲5%	+3%	▲14%
	米州	+10%	▲12%	+8%	▲14%	▲6%	+5%	▲8%	+4%	▲29%
	欧州	+5%	+5%	+8%	▲28%	+32%	▲34%	+27%	▲21%	+10%
	中国	+12%	▲24%	▲21%	▲4%	+35%	▲23%	▲3%	▲16%	+57%
	アジア	+7%	▲17%	▲13%	+3%	▲5%	▲5%	▲11%	+16%	▲10%

[注] FY19およびFY20のデータは、セグメント区分変更後の数値を使用

グローバル生産拠点



YASKAWA